

【町長】

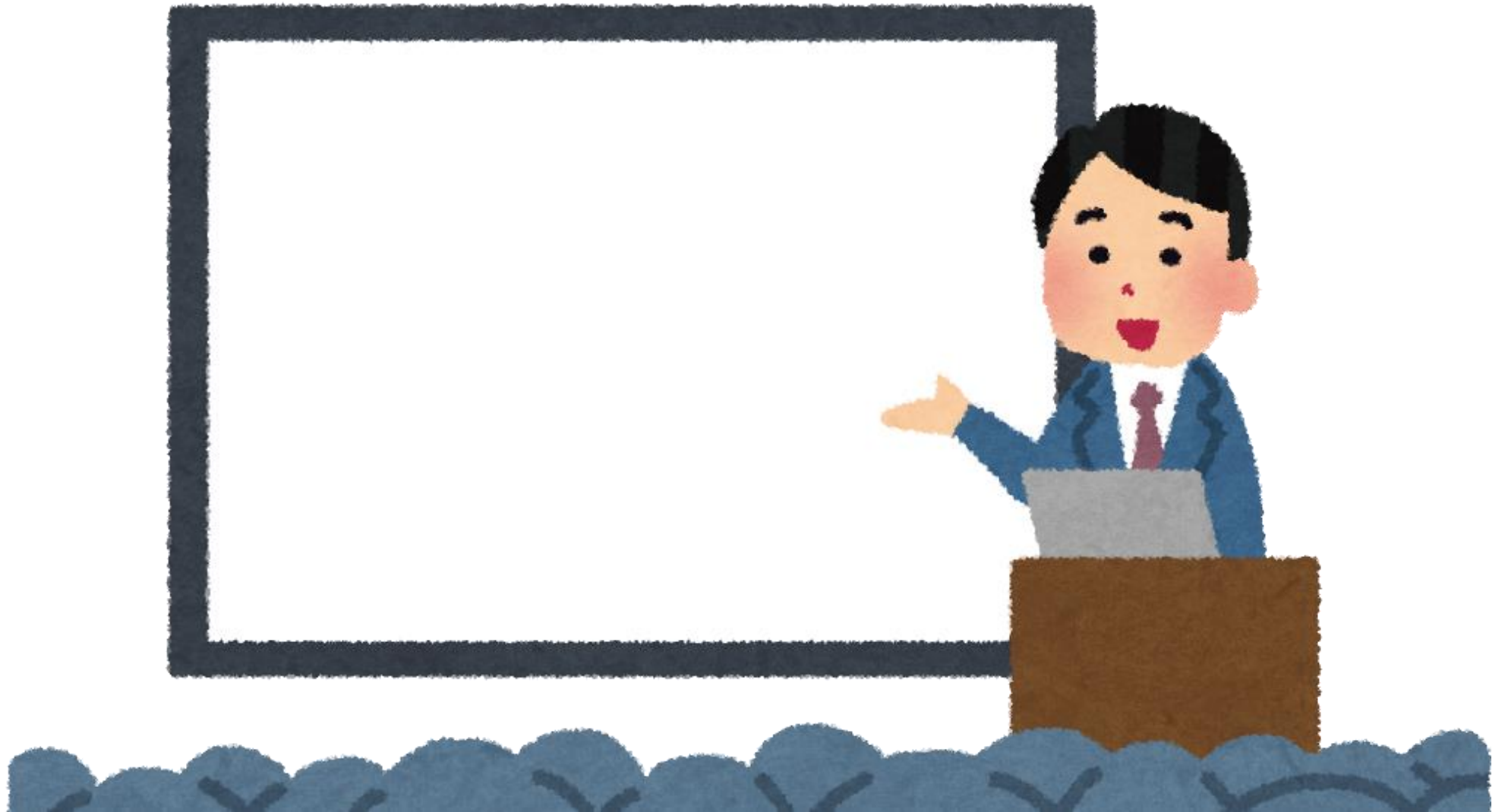
<p>通告順</p>	<p>3</p>	<p>質問 議員</p>	<p>鵜野議員</p>
<p>質問 項目</p>	<p>新たな農業所得対策は必要</p>		
<p>質問 内容</p>	<p>この4年間は「コロナ対策」を行いながらの事業執行という事で、ご苦労を掛けた年となりました。</p> <p>そうした中でも、やはりコロナの影響で、十分に事業効果が得られなかった事業も複数見受けられます。</p> <p>その一つに、ぬまたアグリファーム運営事業がありますが、現況2年目を終えようとするがその成果についてと、農業の所得向上対策について聞きたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アグリファーム事業の状況はどうか。 予算額に対して執行額は 次年度はどの様に改善するのか 2. 農業の所得向上対策事業は機能しているのか。 利用者戸数と執行額は 時代に即した新たなメニュー、取り組みが必要と考えるがどうか 		

【町長】

<p>通告順</p>	<p>4</p>	<p>質問 議員</p>	<p>長野議員</p>
<p>質問 項目</p>	<p>町民と双方向のまちづくりを②</p>		
<p>質問 内容</p>	<p>私は、令和2年3月、第1回定例会において、「町民と双方向でオール沼田のまちづくりを」について一般質問した。双方向型の懇談会などによる町民が誇りを持てる沼田の創造をどのように考え、行うか町長の本気度を聞きたい旨の質問に対して、町長は、「本気です。その上聞く耳を持って意向を確認して出来ることから取り組んでいきたい。(中略)ワークショップ形式も取り入れて行きます」と答弁された。</p> <p>あれから3年、コロナ禍が、全世界に吹き荒れ、対面ができない期間は確かにあったことは理解できる。しかし、コロナ波の合間を縫って、ふるさと創造懇談会やJR留萌線の説明会などは開催されてきた。</p> <p>その中で、町民の参加が極めて少なかったのはコロナ禍だけが原因ではない。ふれあいやゆめっくるの懇談会では、「議員と町職員以外の町民はほとんどいない」と参加者から指摘される場面もあった。参加者が少ない原因は次のように考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町民が役場に対して取っ付きづらいイメージがあり足を運びづらいのではないか。 ・一般町民が質問することは余程の勇気がいることであり遠のくのではないか。 ・事後報告ばかりで意見を出しても町民の声が反映されないので行かなくなった。 <p>この事を解決する方策として、職員を各グループに1名ずつ配置したワークショップ形式が有効と考える。町長、課長クラスの説明の質疑後にグループごとの質問コーナーを起し、町民参画の場面を設定する。まとめは、職員または互選によるリーダーが務め、状況によって取り上げて発言してもらう。</p> <p>わが町の町づくりにはワクワクしたい。懇談会の積極参加を通して町づくりの手ごたえを感じた町民は、仲間を増やしリピーターとなる好循環が期待できる。様々な意見が湧き出る可能性はあるが恐れてはならない。職員も今以上に手ごたえを感じ、働く喜びが湧き、好結果、好循環につながるのではないか。</p> <p>その姿勢こそが双方向の町づくりへの大きな一歩になると確信する。町長の聞く耳を大事にした考えを聞きたい。</p>		

資料1

従来型：整然と効率的に進めることができる



いらすとや画像より

ワークショップ型：格段に発言しやすい



いらすとや画像より

資料3

ふるさと創造懇談会ワークショップ型の（例）

本日の説明事項

- ①町営高穂スキー場について
- ②高齢者住宅等周辺整備事業
- ③沼田町まるごと自然体験プロジェクト事業
- ④沼田町特産品開発事業(クラフトビール)
- ⑤再生可能エネルギー導入支援事業(脱炭素の取り組み)
- ⑥JR留萌本線応援事業
- ⑦沼田町×カネカ 健康応援プロジェクト事業
- ⑧かき田用トマト栽培のお願い
- ⑨令和...まちづくりハンドブックについて

◆ワークショップ
10分

◆まとめ交流
10分

◆全体を通し
て10分

**全員が発言することで町づくりへの
参画意識が高まる→また来たい！！**